

カワバタモロコ(絶滅危惧Ⅰ種)試験放流

2015年3月27日、徳島県鳴門市において、国のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅰ種に指定されている【カワバタモロコ(淡水魚)】の試験放流が行われました。

徳島新聞翌日の朝刊に紹介されていますが、2004年に鳴門市大津町の用水路で生息が確認され、徳島県、地域小学校、高校、県内企業等の協力で、飼育・増殖してきた成果が、試験放流の段階になりました。

試験放流は、人工飼育されたカワバタモロコが厳しい自然環境に順応できるかを知るチャレンジの場でもあります。

池にカワバタモロコを放流



右写真は、高校で飼育された
“カワバタモロコ”



右写真は、県内企業で
飼育された

“カワバタモロコ”



この日の放流は、2039匹

“カワバタモロコ保護活動”は、環境省が環境・社会貢献活動を表彰する『グッドライフアワード』の最優秀候補に選ばれ、投票結果、特別賞を授与しました。

特別賞の表彰状



放流前に関係者(約30名)が経緯等説明



【 考 察 】

私がこの会に参加したのは、ビオトープ管理士会徳島支部に属し、支部理事でもあり、故郷の環境保全に少しは役立ちたいとの思いからです。

印象として焼き付いたのは、小学校・高校、地元企業が取り組んでおり、継承する企画が素晴らしいと感じました。

それは、“東日本大震災復興”で地震と津波の警鐘を子供達に対して伝えようとする事と同じような価値を感じたことです。

また高校生が、放流する池の状況から、樹木が池面に覆っているため、鳥などの捕食から逃げられると話してくれ、飼育しながらよく勉強していると感心しました。

当取り組みで、技術士としての感想は、一つは20年若かったら、水環境の技術士にチャレンジしたかも知れないことです。

で、後輩若手技術士やシビルエンジニアに対して、仕事の中で、このような環境に遭遇する機会があれば、積極的に保全等に関わってもらいたいと思いました。

またシビルエンジニアリングは、自然や生物と共生する知恵を働かせる面が必要であることを共に学んで行きたいと思いました。

今後も、機会があれば、時間が許される事を前提に、関わって行こうと思っています。

立命館大学技術士会 幹事長
糸田川 廣志 (1972年卒)

技術士:上下水道部門、
総合技術監理部門
(登録番号:第16769号)
2級ビオトープ計画管理士
(認証番号:第P114002号)